一誌一句（受贈誌８・９月号他より）

米田　透　抄出

夏鷹の声や安土のセミナリオ　（　斧　）　はりまだいすけ

法然の腰掛け石や蟬しぐれ　（若　竹）　加古　宗也

雲白くわく日のからす麦は熟れ　（やぶれ傘）　大崎　紀夫

とつとつとあの日のことを能登の夏　（あすか）　野木　桃花

数独の最後が解けぬ麦茶かな　（あふり）　小沢　真弓

トスカーナ岩塩を振る夏休み　（　軸　）　秋尾　　敏

十巻の梁塵秘抄雲の峰　（　陸　）　中村　和弘

帰省子待つ奥の一間を空けて待つ　（玉　梓）　名村早智子

薫風や瑞穂の国の子どもたち　（ろんど）　すずき巴里

海霧の沖蠢く気配ロシア船　（　道　）　田湯　　岬